

ホクコーダッシュワン®フロアブル

■種類名：ダイムロン・ペントキサゾン水和剤
■有効成分：ダイムロン----- 22.9%
 ペントキサゾン----- 3.8%
■化管法指定物質：ペントキサゾン [第1種] ----- 3.8%

■登録番号：第21166号
■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2003.12.24
■性状：類白色水和性粘稠懸濁液体
■有効年限：4年
■包装：500ml×20本、2ℓ×6本

【特長】

- ノビエに対する残効が長いペントキサゾンと、ホタルイなどカヤツリグサ科雑草に効果の高いダイムロンを混合した初期除草剤。
- 2つの有効成分の組合せにより、ノビエをはじめとする一年生雑草ならびに多年生雑草に高い効果を発揮する。
- クログワイ防除にも有効。

【適用内容】(2025年10月8日現在)

| 作物名 | 適用雑草名 | 使用時期 | 使用量 | 本剤の使用回数 | 使用方法 |
|------|--|---|------------|---------|----------------------|
| 移植水稻 | 水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ヘラオモダカ クログワイ | 植代時 (移植7日前まで) | 500 ml/10a | 1回 | 植代時に原液のまま 散布し混和する |
| | | 移植時 | | | 田植同時散布機で施用 |
| | | 植代後～移植前7日 又は 移植直後～ノビエ1葉期 但し、移植後30日まで | | | 原液湛水散布 |

| ダイムロンを含む農薬の総使用回数 | ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数 |
|---------------------------|--------------------|
| 3回以内(育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内) | 2回以内 |

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は貯蔵中に上澄液が分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振ること。
- 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの1葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレグがあるので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは発生前から発生始期まで、クログワイは発生前が本剤の散布適期である。藻類または表層はく離の発生しやすい水田では有効な剤との組合せで使用すること。
- クログワイの防除は有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイについては、有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより効果が向上する。
- 苗の植付けが均一になるように、整地、代かきはていねいに行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行くこと。
- 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布し、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態(水深3~5cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないように注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- 苗が水没するような深水状態では、葉鞘部に軽い褐変症状が出るおそれがあるので、水管理に注意すること。
- 以下の水田では初期生育の抑制が生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
 - ◆ 軟弱徒長苗を移植した水田
 - ◆ 極端な浅植えや深植えをした水田
- れんこん、くわい、せりなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- 本剤処理後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。散布後は水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温な場所で密栓して保管すること。